

公 開
資 料 3

第 3 8 7 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和7年7月28日

日 本 学 術 会 議

Ⅲ 公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
1. 国際関係						
提案1	令和7年度代表派遣について、実施計画を変更すること	会長	3	令和7年度代表派遣について、実施計画の変更をする必要があるため。	日比谷副会長	国際交流事業の実施に関する内規第21条第2項
2. シンポジウム等						
提案2	講演会「AASSA WISE シンポジウム (Women in STEM)」の開催について	日比谷副会長	4	主催：日本学術会議国際委員会・国際委員会アジア学術会議等分科会 日時：令和7年8月4日(月)～6日(水) 場所：東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構(千葉県柏市)(ハイブリッド開催) ※国際委員会7月25日承認	—	内規別表第2
提案3	公開シンポジウム「高校心理学教育と心理学(者)との効果的なつながりを育むために」の開催について	心理学・教育学委員会委員長	7	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会心の科学のキャリアパス構築分科会、公益社団法人日本心理学会高校心理学教育小委員会 日時：令和7年9月6日(土)または7日(日)※日時未定 場所：東北学院大学五橋キャンパス(宮城県仙台市) ※第一部承認	—	内規別表第2
提案4	公開シンポジウム「フューチャー・デザイン2025」の開催について	経済学委員会委員長、環境学委員会委員長	9	主催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所 日時：令和7年9月13日(土)10:00～17:30、9月14日(日)9:30～13:10 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案5	公開シンポジウム「Speaking Plant Approach 2.0 ～農業生産現場実装と学術の次なる挑戦～」の開催について	食料科学委員会委員長、農学委員会委員長	13	主催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同農業情報システム学分科会、農学委員会農業生産環境工学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同CIGR分科会、日本生物環境工学会、愛媛大学(予定) 日時：令和7年9月16日(火)13:00～15:45 場所：愛媛大学農学部大講義室(愛媛県松山市)(ハイブリッド開催を検討中) ※第二部承認	—	内規別表第2
提案6	公開シンポジウム「地域の特徴を生かした大学の取組×学術とスタートアップの両輪での推進に向けて」の開催について	若手アカデミー	15	主催：日本学術会議若手アカデミー 日時：令和7年9月16日(火)14:00～17:30 場所：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター 中会議室(新潟県新潟市中央区)(ハイブリッド開催)	—	内規別表第2

提案7	公開シンポジウム 「地球的課題解決のための資質・能力を育成する地理教育—小学校・中学校・高等学校までの一貫カリキュラムに向けて—」の開催について	地域研究委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長	18	主催：日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育・ESD分科会、公益社団法人日本地理学会 日時：令和7年9月21日（日）9：00～12：00 もしくは13：00～16：00 場所：弘前大学京町キャンパス（青森県弘前市） ※第一部承認	—	内規別表第2
提案8	公開シンポジウム 「戦後80年の国境横断ガバナンスの形成と変容—開放と閉鎖の相克—」の開催について	政治学委員会委員長	20	主催：日本学術会議政治学委員会紛争下の人道的危機に関する国際政治分科会 日時：令和7年9月27日（土）13:00～16:00（11月15日（土）に変更の可能性あり） 場所：青山学院大学青山キャンパス講義室（東京都渋谷区） ※第一部承認	—	内規別表第2
提案9	公開シンポジウム 「歴史教育シンポジウム—新課程での大学入学共通テストと歴史教育」の開催について	史学委員会委員長	22	主催：日本学術会議史学委員会、史学委員会教育現場・社会における歴史実践と歴史認識に関する分科会、日本歴史学協会 日時：令和7年10月25日（土）13：00～17：00 場所：一橋大学（東キャンパス）東2号館2201教室（東京都国立市） （ハイブリッド開催） ※第一部承認	—	内規別表第2
提案10	公開シンポジウム 「女性活躍を支える家族のウェルビーイングとワークライフバランスの実現」の開催について	経済学委員会委員長	24	主催：日本学術会議経済学委員会ワークライフバランス研究分科会、一橋大学経済学研究所世代間問題研究機構 日時：令和7（2025）年11月22日（土）15：00～17：30 場所：一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）（ハイブリッド開催） ※第一部承認	—	内規別表第2
提案11	公開シンポジウム 「分断化する社会の中で対話は可能か：ポスト・ソーシャルメディア時代の社会構築」の開催について	哲学委員会委員長	27	主催：日本学術会議哲学委員会 日時：令和7年12月21日（日）13：00～17：00 場所：立教大学池袋キャンパス11号館地下AB01教室（東京都豊島区西池袋）（ハイブリッド開催） ※第一部承認	—	内規別表第2

3. 後援

提案12	国内会議の後援をすること	会長	29	以下について、後援の申請があり、関係する部及び委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・化学工学会第56回秋季大会シンポジウム「SDGs達成に向けた札幌宣言の実行—国際連携によるefficiency+sufficiencyの達成—」 ・サイエンスアゴラ2025（年次総会）	—	後援名義使用承認基準3（2）ウ
------	--------------	----	----	--	---	-----------------

4. その他

	件名	資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は8月29日(金)14:30～開催予定。	30

令和7年度代表派遣実施計画の変更について

以下のとおり、令和7年度代表派遣実施計画(第381回幹事会(令和7年2月27日)にて承認済)の変更を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	サイエンス 20(S20) 2025	9月頃 ↓ 9月23日	未定 (南アフリカ) ↓ オンライン	日比谷 潤子 副会長、第一部会員 (国際基督教大学名誉教授)	国際委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・会期の変更 ・開催形式の変更により、 現地出席予定からオンライン出席に変更

公開シンポジウム
「AASSA WISE シンポジウム（“Women in STEM”）」
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議国際委員会、国際委員会アジア学術会議等分科会
2. 共 催：東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構
(Kavli IPMU)
アジア科学アカデミー・科学協会連合
(The Association of Academies and Societies of Sciences in
Asia (AASSA))
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和7年8月4日（月）から8月6日（水）（3日間）
5. 場 所：東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構（千葉県柏市）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：無

8. 開催趣旨：

インターアカデミーパートナーシップ（IAP）の地域ネットワークの一つであり、日本からは日本学術会議が加盟しているアジア科学アカデミー・科学協会連合（以下、AASSA という。）には、個別のテーマを取り扱う Special Committees（特別委員会）が設置されており、このうち WISE (Women in Science and Engineering) 委員会は、アジア太平洋地域内の科学教育の推進、科学・工学における女性の活躍推進を目的として活動している。

この度、WISE 委員会委員の伊藤由佳理会員（第3部、東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構副機構長）が中心となり、AASSA WISE シンポジウムを日本で開催し、STEM（科学・技術・工学・数学）分野の女性研究者の支援活動について議論するとともに、アジア・太平洋地域における STEM 分野の女性研究者の現状について意見交換を行う。加えて、女性研究者間の恒常的なネットワークを構築し、女性研究者の活躍を後押しするためのメンタリングや支援策の共有を図る。

9. 次 第：

8月4日(月)

午前中： AASSA の WISE 委員会を開催

昼休み： ランチミーティング

(WISE メンバー、日比谷潤子日本学術会議副会長(国際活動担当)、相原博昭東京大学理事、林香里東京大学理事、横山順一東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構長)

以下講演者のうち、現時点での登壇調整者は*を付記。

13:30 開会の挨拶 1 日比谷 潤子(日本学術会議副会長(国際活動担当))
開会の挨拶 2 横山 順一(東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構長)

13:40-14:10 講演 1

Frances Separovic (WISE 委員長：オーストラリア)

(Supporting and increasing the visibility of women in science)

14:20-14:50 講演 2

Supawan Tantayanon (WISE 前委員長：タイ)

(Empowering women in STEM through small-scale chemistry across South and Southeast Asia)

14:50-15:40 休憩

15:40-16:10 講演 3

Aura Castillo Matias (WISE：フィリピン)

(Improving the scientific productivity of women scientists and engineers)

16:20-16:50 講演 4

Elizabeth Oda (Women in Science Japan 代表)

8月5日(火)

10:00-10:30 講演 5

So Young Sohn (WISE：韓国)

(Utilizing highly experienced women in science and technology in the era of population decline)

10:40-11:10 講演 6

Nadira Karunaweera (WISE：スリランカ)

(Gender gap in research and development in Sri Lanka)

11:20-11:50 講演 7
Kadriye Arzum Erdem Gürsan WISE : トルコ)

11:50-13:40 昼食休憩

13:40-14:10 講演 8
Gunakeshari Pradhan Manandhar (WISE : ネパール)
(Barriers to Breakthroughs: Women in Nepal's ICT landscape)

14:20-14:50 講演 9
Bushra Ateeq (WISE : インド)

14:50-15:40 休憩

15:40-16:10 講演 10
Natalia Varlamova (WISE : ロシア)

16:20-16:50 講演 11
Aliya Naheed (WISE:バングラデシュ)

8月6日(水)

10:00-10:30 講演 12
玉田 薫 (日本学術会議第三部会員 (第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ
分科会委員長)、九州大学主幹教授・副学長) *

10:40-11:10 講演 13
益 一哉 (産業技術総合研究所/G-QuAT センター長元東京工業大学学長)
(教員の女性限定公募と大学入試の女子学生枠について)

11:20-11:50 講演 14
小谷元子 (日本学術会議連携会員/東北大学理事)

11:50-13:00 昼食

13:00-15:40 ネットワーキング

15:40-17:00 フリーディスカッション

10. 関係部の承認の有無 : 無

11. 関係する委員会等連絡会議の有無 : 無

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

公開シンポジウム
「高校心理学教育と心理学（者）との効果的なつながりを育むために」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会心の科学のキャリアパス構築分科会、公益社団法人日本心理学会教育研究委員会高校心理学教育小委員会

2. 日 時：令和7（2025）年9月6日（土）または7日（日）※日時未定

3. 場 所：東北学院大学五橋キャンパス（仙台市若林区清水小路3-1）

4. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

5. 分科会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

本公開シンポジウムは、心理学者が高校心理学教育の実情を知り、効果的に連携していくことを目指すと同時に、高校の先生方が心理学の授業実践についての実際問題について述べ、心理学者が教室のなかで出来る心理学について紹介する機会とする。具体的な事例は高校心理学教育の実情を知る有効な手がかりとなると考えられる。そのため、「心理学の授業の導入」および「感情についての授業実践例」を取り上げる。これらの話題は、心理学・教育学委員会心の科学のキャリアパス構築分科会で現在取り組んでいる、意思の表出「よりよい社会を実現するための心の科学教育の未来像」報告案の作成と展開に資するものである。なお、公益社団法人日本心理学会において2018年に発足した高校心理学教育小委員会の活動内容に深く関連するため、日本心理学会大会との同時開催としている。

7. 次 第：

企画者：

楠見 孝（日本学術会議連携会員／京都大学国際高等教育院副教育院長・特定教授／公益社団法人日本心理学会高校心理学教育小委員会委員）

北川 恵（甲南大学教授／公益社団法人日本心理学会教育研究委員会高校心理学教育小委員会委員）

大神 優子（和洋女子大学教授／公益社団法人日本心理学会教育研究委員会高校心理学教育小委員会委員）

司会：北川 恵（甲南大学教授／公益社団法人日本心理学会教育研究委員会高校心理学教育小委員会委員）

1. 挨拶・高等学校の心理学教育と日本学術会議について
楠見 孝（日本学術会議連携会員／京都大学国際高等教育院副教育院長・特定教授／
公益社団法人日本心理学会教育研究委員会高校心理学教育小委員会委員）
2. 教科書（高校倫理）のなかで心理学がどのように扱われているか
鈴木 雅之（横浜国立大学准教授／公益社団法人日本心理学会教育研究委員会高校心
理学教育小委員会委員）
3. 高校での公民科「倫理」の授業で心理学をどのように扱っているか
杉浦 光紀（東京都立新宿山吹高等学校教諭）
4. 教室のなかで出来る心理学についての実践例や工夫
 - (1) 心理学への導入
佐藤 誠子（東北大学准教授／公益社団法人日本心理学会会員）
 - (2) 感情に関する実践授業の例
野崎 優樹（甲南大学准教授／公益社団法人日本心理学会会員）

指定討論

1. これからの高校と大学とのつながり方（高校心理協について）
池田 まさみ（十文字学園女子大学教授／公益社団法人日本心理学会
高校心理学教育小委員会委員）
 2. 日本学術会議「心の科学のキャリアパス構築」の視点から
河原 純一郎（日本学術会議第一部会員／北海道大学大学院文学研究科教授／
日本心理学会高校心理学教育小委員会委員）
8. 関係部の承認の有無：第一部承認
9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「フューチャー・デザイン 2025」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、一般財団法人キャノングローバル戦略研究所
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和7（2025）年9月13日（土）10：00～17：30
令和7（2025）年9月14日（日）9：30～13：10
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：未定

8. 開催趣旨：

私たちは現在、様々な脅威に直面しています。ここで言う「脅威」とは、人類の存続可能性を含む多様な課題を指します。頻発する戦争、政治的な分断、経済危機などに加えて、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、窒素循環の崩壊、食料安全保障の危機など、相互に関連した複合的な問題群です。

しかし、私たちは「目先の利益を差し置いてでも、将来世代のしあわせを目指すことでしあわせを感じる」能力を持っているのではないのでしょうか。これを「将来可能性」と名付け、フューチャー・デザインは、将来世代に大きな負荷をかけてしまう「将来失敗」を回避するために、私たちが「将来可能性」を発揮できる社会のデザインを目指しています。

本シンポジウムはすでに7回開催されていますが、「フューチャー・デザイン 2025」では、イギリスのウェールズで「将来世代のしあわせ法 2015」を策定された Jane Davidson 氏と宮崎県木城町で総合計画の策定を含む様々なフューチャー・デザインを実施されている文田恵子氏を基調講演者として迎えます。また、世界および日本の各地で実施されているフューチャー・デザインの実験や実践の報告を予定しています。

9. 次 第:

フューチャー・デザイン 2025 プログラム		
9/13(土)		
	司会：中川 善典（日本学術会議連携会員／上智大学地球環境学研究科教授）	
10:30	開会挨拶	小林 慶一郎（一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所研究主幹／慶應義塾大学教授）
	ソーシャルワークにおけるフューチャー・デザインの導入実践：長野県の福祉現場における取り組み	
10:35	①	井上 信宏（信州大学学術研究院教授（社会科学系））
11:10	②	中島 将（社会福祉法人長野県社会福祉協議会）
11:45	③	柴田 裕美（社会福祉法人諏訪市社会福祉協議会）、和知 忍（公益財団法人長野県長寿社会開発センター）、下倉 亮一（公益財団法人長野県長寿社会開発センター）
12:20	昼休み	
	司会：西村 直子（日本学術会議連携会員／立命館大学教授／大阪大学社会経済研究所特任教授）	
13:10	④	「気候変動に関する時間選好と世代間態度」 Botao Qin（西安交通大学ジンフー経済研究センター）
13:45	⑤	「過去の遺産から未来の遺産へ：フューチャーデザインによる三池炭鉱の未来構想」 Farzaneh Gharaati（タルビアト・モダレス大学建築学部博士候補生）
14:20	⑥	「財政の未来をデザインする：日本とドイツにおける世代間正義と公的債務」 Yosuke Buchmeier（ミュンヘン大学アジア研究学科日本研究センター研究員）
14:55	休憩	
	司会：西條 辰義（日本学術会議連携会員／京都先端科学大学特任教授／大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所客員教授）	
15:05	⑦	「未来のデザイン：想像力を刺激するには？」 Rick Koster（リーダースコープ - 戦略とリーダーシップ開発ネットワーク）、Igor Verettas（教育講演者 - 基調講演者、司会者、モデレーターのためのネットワーク）
15:40	⑧	「アートは未来のために何ができるか？」 Michael Münker（ミリオンジェネレーションズ財団）

16:15	休憩	
	司会：一原 雅子（京都大学大学院法学研究科附属法政策共同研究センター環境と法ユニット特定助教）	
16:25	基調講演	「未定」 Jane Davidson（ウェールズ大学トリニティ・セント・デイビッド名誉副学長）
17:25	閉会挨拶	一原 雅子（京都大学大学院法学研究科附属法政策共同研究センター環境と法ユニット特定助教）

9/14(日)		
	司会：岡本 剛（九州大学基幹教育院准教授）	
9:30	⑨	「将来世代の視点から世界自然遺産を考える：富士山ワークショップにおける Future Design の試行とその意義：」 織 朱實（上智大学地球環境学研究科教授）
10:05	⑩	「環境保護意欲に対する年齢・経済的要因の影響：ISSP データを用いた二次分析」 高橋 茉優（日本学術振興会特別研究員 DC1・東京大学大学院人文社会系研究科博士3年）
10:40	休憩	
	司会：大本 エリナ（財務省主計局調査課課長補佐）	
10:50	⑪	「フューチャー・デザイン体験を用いた大学職員向けワークショップの試み」 塩川 雅美（龍谷大学）、佐藤 浩輔（大阪体育大学）、森下 覚（東京都市大学）、小林 諒太郎（大阪経済大学）
11:25	⑫	「フューチャー・デザインの脳科学的検証」 岡本 剛（九州大学基幹教育院准教授）
12:00	休憩	
	司会：高橋 雅明（岩手県矢巾町教育委員会学校教育課課長）	
12:05	基調講演	仮）「宮崎県木城町におけるフューチャー・デザイン」 文田 恵子（木城町役場地域政策課まちづくり推進係）
13:05	閉会挨拶	西條 辰義（日本学術会議連携会員／京都先端科学大学特任教授 ／大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所客員教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
 「Speaking Plant Approach 2.0 ～農業生産現場実装と学術の次なる挑戦～」
 の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同農業情報システム学分科会、
農学委員会農業生産環境工学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同
CIGR 分科会、日本生物環境工学会、愛媛大学（予定）
2. 共 催：なし
3. 後 援：一般社団法人日本施設園芸協会、高知大学 IoP 共創センター、日本農業気象
学会、一般社団法人農業情報学会、生態工学会、一般社団法人農業食料工学
会（すべて予定）
4. 日 時：令和7（2025）年9月16日（火）13:00 ～ 15:45
5. 場 所：愛媛大学農学部大講義室（愛媛県松山市樽味3丁目5-7）（オンラインと
のハイブリッド開催を検討中）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 委員会の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

Speaking Plant Approach (SPA) は、植物の生体情報を多様なセンサーを用いて計測して生育状態を診断し、その診断結果に基づいて栽培環境を最適に制御するという環境制御戦略であり、植物工場をはじめとする環境制御型農業生産の中核的なパラダイムとなっている。近年、センシングデバイスの高性能化・小型化・低廉化が進み、IoT 基盤が社会インフラとして整備される中、政府のスマート農業推進施策とも相まって、農業生産現場へのセンシング技術の導入が急速に進展した。この中で、これまで目視に頼ってき生育状態把握のデジタル化も実装段階にあり、特に最近では、光合成速度などのこれまで農業現場では計測が困難とされてきた根本的な植物生体情報についても、リアルタイムかつ On-site での計測が実現しつつある。本シンポジウムでは、こうした SPA の社会実装が本格化し始めた現状を俯瞰するとともに、今後学術が拓くべき次の SPA 研究のあり方について議論する。

9. 次 第：

総合司会：藤内 直道（愛媛大学大学院農学研究科准教授）

13:00 開会の挨拶

後藤 英司（日本学術会議第二部会員／千葉大学大学院園芸学研究院教授）

13:05 シンポジウムの開催趣旨

高山 弘太郎（日本学術会議第二部会員／豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授／愛媛大学大学院農学研究科教授）

第一部 SPA の創生と社会実装：農学パラダイムから農業パラダイムへ

司会：林 絵理（日本学術会議連携会員／特定非営利活動法人植物工場研究会理事
長）

13：10 「Speaking Plant Approach の創生と学術研究における展開」

羽藤 堅治（日本学術会議連携会員／愛媛大学副学長／大学院農学研究科教授）

13：20 「利益最大化 CO2 施用を実現する SPA セミクローズド温室」

高山 弘太郎（日本学術会議第二部会員／豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
／愛媛大学大学院農学研究科教授）

稲葉 一恵（PLANT CASE 株式会社代表取締役社長／豊橋技術科学大学研究員）

藤内 直道（愛媛大学大学院農学研究科准教授）

13：45 「植物環境応答モデルの広域実装～IoP としての SPA 地域展開～」

岡安 崇史（日本学術会議連携会員／九州大学大学院農学研究科教授）

安武 大輔（日本学術会議連携会員／九州大学大学院農学研究科准教授）

14：10 - 14：20 休憩

第二部 SPA の未来：新たな学術領域を牽引

司会：彦坂 晶子（日本学術会議連携会員／千葉大学大学院園芸学研究院准教授）

14：20 「宇宙農業を支える基盤的技術としての SPA」

後藤 英司（日本学術会議第二部会員／千葉大学大学院園芸学研究院教授）

14：45 「デジタルツインにおける SPA」

福田 弘和（日本学術会議連携会員／大阪公立大学大学院工学研究科教授）

第三部 パネルディスカッション

15：10 「環境制御型農業生産に貢献する SPA 学術研究の展望」

コーディネータ：高山 弘太郎（日本学術会議第二部会員／豊橋技術科学大学大学院
工学研究科教授／愛媛大学大学院農学研究科教授）

パネリスト：

安武 大輔（日本学術会議連携会員／九州大学大学院農学研究科准教授）

福田 弘和（日本学術会議連携会員／大阪公立大学大学院工学研究科教授）

林 絵理（日本学術会議連携会員／特定非営利活動法人植物工場研究会理事
長）

彦坂 晶子（日本学術会議連携会員／千葉大学大学院園芸学研究院准教授）

15：40 閉会の挨拶

仁科 弘重（日本学術会議連携会員／愛媛大学学長）

15：45 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「地域の特色を生かした大学の取組×学術とスタートアップの両輪での推進に向けて」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和7（2025年）年9月16日（火）14：00～17：30
5. 場 所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 中会議室
（新潟県新潟市中央区万代島6番1号）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 委員会の開催：若手アカデミー会議を翌日に開催予定

8. 開催趣旨：

今日、少子高齢化、産業構造の変化、技術革新、環境問題への対応など、地域が直面する課題は多様化・複雑化しています。こうした課題に対して、大学は地域に根ざした知の拠点として、学術の知見を地域社会に還元する重要な役割を担っています。

一方で、大学は近年、研究成果の社会実装を通じて産業創出にも貢献する存在として注目されており、大学発スタートアップはその代表的な手段の一つです。地域の特色やニーズを起点としながら、学術研究から生まれる技術や知見が、スタートアップを通じて社会に展開されることで、地域経済や暮らしに新たな価値をもたらすことが期待されます。

本シンポジウムでは、大学がいかにして地域と連携し、課題解決に取り組むかに加え、その延長線上にある大学発スタートアップの可能性についても議論します。地域課題に向き合う中で芽吹くスタートアップのあり方、そして研究者自身のキャリアと地域の未来を重ね合わせる視点から、大学の新たな社会的役割を探ります。

また、日本学術会議若手アカデミーでは、スタートアップと学術の両輪での発展に向け、研究者へのヒアリングや国内外の動向分析を通じて意思の表出の「見解」の取りまとめを進めており、その一端も紹介します。

9. 次 第:

総合司会：木村 草太（日本学術会議連携会員／若手アカデミー地域社会とアカデミアの連携に関する分科会委員長／東京都立大学政治学研究科／法学部教授）

14：00 開会挨拶

前川 知樹（日本学術会議連携会員／若手アカデミー会員／新潟大学大学院医歯学総合研究科高度口腔機能教育研究センター研究教授）

14：10 シンポジウムの開催趣旨、日本学術会議若手アカデミーの活動紹介

小野 悠（日本学術会議連携会員／若手アカデミー代表／豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授）

14：10 - 15：10 第一部「地域の特色を生かした大学の取組」

ファシリテーター：木村 草太（日本学術会議連携会員／若手アカデミー地域社会とアカデミアの連携に関する分科会委員長／東京都立大学政治学研究科／法学部教授）

報告者（5名）

岡本 圭一郎（新潟大学大学院医歯学総合研究科（歯学部）口腔生理学分野准教授／新潟大学日本酒学センター・協力教員）

安田 浩保（新潟大学災害・復興科学研究所准教授／自然科学研究科環境科学専攻准教授／研究統括機構研究教授）

棒田 恵（新潟大学教育研究院自然科学系生産デザイン工学系列准教授／工学部工学科准教授／自然科学研究科環境科学専攻准教授）

門田 有希（日本学術会議連携会員／若手アカデミー会員／岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域教授）

田井 明（日本学術会議連携会員／若手アカデミー会員／福岡工業大学社会環境学部社会環境学科准教授）

15：20 - 16：20 第二部「学術とスタートアップの両輪での推進に向けて若手 × 多様性 × 地方の新たなイノベーション」

ファシリテーター：武田 秀太郎（日本学術会議連携会員／若手アカデミー未来を拓く学術イノベーション分科会委員長／慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科准教授）

(報告者4名)

永田 暁彦 (UntroD Capital Japan 株式会社代表取締役社長)

藤本 あゆみ (一般社団法人スタートアップエコシステム協会代表理事)

田中 和哉 (Co-founder & Board Director, CSO at scheme verage, Inc、政策研究大学院大学政策研究院リサーチ・フェロー、慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員)

武田 秀太郎 (日本学術会議連携会員／若手アカデミー未来を拓く学術イノベーション分科会委員長／慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科准教授)

16:30 ディスカッション

17:30 閉会

10. 関係部の承認の有無：若手アカデミーのため該当しない

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

公開シンポジウム

「地球的課題解決のための資質・能力を育成する地理教育
—小学校・中学校・高等学校までの一貫カリキュラムに向けて—
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育・ESD 分科会、公益社団法人日本地理学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：地理学連携機構
4. 日 時：令和 7（2025）年 9 月 21 日（日） 9：00～12：00 もしくは 13：00～16：00
（プログラム調整中、7/22～末に確定）
5. 場 所：弘前大学 文京町キャンパス（青森県弘前市文京町一番地）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

グローバル化や環境変化が急速に進む現代、地球的課題解決のための資質・能力のさらなる充実、世界共通の喫緊の課題である。学習指導要領では、思考力・判断力・表現力といった資質・能力が特に重視され、学習指導要領解説では、国際連合における持続可能な開発のための取り組みを参考に、生徒自身が地球的視野で考え、様々な課題を自らの課題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となることにつながる教育をもとめている。このような教育は、ESD（Education for Sustainable Development）、つまりは持続可能な社会の創り手を育む教育といえ、学習指導要領でも ESD が求められているといえる。一方で、小学校から高等学校まで各教科等で段階的に持続可能な社会づくりの能力を育成することが重要であるものの、効果的に行われているとはいえず、学習指導要領などでも小学校から高等学校までの一貫した持続可能な社会づくりの方略について示されていない。

そこで、こうした持続可能な社会づくりの能力の育成をめざすために、地理教育において必要な教育内容を小・中・高までの一貫したカリキュラムを念頭にして討論する。

なお、本シンポジウムは、令和 7（2025）年 7 月 24 日に開催された日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育・ESD 分科会での環境学委員会環境思想・環

境教育分科会委員長、ユネスコ国内委員会委員、ESD 学会の役員、国際理解教育の専門家を招いて議論した内容を踏まえての報告となると同時に、意思の表出の内容を議論することも兼ねている。

9. 次 第：

オーガナイザー：井田 仁康（日本学術会議連携会員／筑波大学名誉教授／公益社団法人日本地理学会会長）、村山 朝子（日本学術会議連携会員／茨城大学名誉教授）、由井 義通（日本学術会議連携会員／広島大学人間社会科学研究科教授）、久保 純子（日本学術会議連携会員／早稲田大学教育・総合科学学術院教授）、山野 博哉（日本学術会議連携会員／東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教授／国立環境研究所生物多様性領域上級主席研究員）

総合司会：由井 義通（日本学術会議連携会員／広島大学人間社会科学研究科教授）、森本 泉（日本学術会議連携会員／明治学院大学国際学部教授）

（時間は午前中開催の場合）

9：00～9：10 開会挨拶

井田 仁康（日本学術会議連携会員／筑波大学名誉教授／公益社団法人日本地理学会会長）

9：10～9：25 報告1：小学校社会科におけるフィールドワークと地図学習の課題

吉田 和義（元創価大学教授）

9：25～9：40 報告2：小・中社会科における「地誌」学習の課題と展望

村山 朝子（日本学術会議連携会員／茨城大学名誉教授）

9：40～9：55 報告3：「地理総合」の現状と課題－担当経験者を対象とした実態調査の結果報告－

浅川 俊夫（元東北福祉大教授）

9：55～10：10 報告4：地球的課題解決を見据えた地理授業をつくる教師の育成

伊藤 直之（鳴門教育大学教授）

10：10～10：25 報告4：地理教育の社会への実装

中澤 高志（日本学術会議第一部会員／明治大学経営学部教授）

コメント（指定討論者）

10：45～10：55 コメント1：学習指導要領作成の立場から

小関 祐之（文部科学省教科調査官／国立教育政策研究所教育課程調査官）

10：55～11：10 コメント2：地理教育の立場から

吉田 剛（宮城教育大学教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「戦後 80 年の国境横断ガバナンスの形成と変容—開放と閉鎖の相克—」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会紛争下の人道的危機に関する国際政治分科会
2. 共 催：日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 A「分断する国際政治における国際協調とガバナンスの政治経済分析」（代表：鈴木基史、令和 5～8 年度）、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 A「国際社会における保護・禁止等の範囲をめぐる学際的研究」（代表：石田淳、令和 3～7 年度）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 7 年 9 月 27 日（土）13:00 ～ 16:00（11 月 15 日（土）に変更の可能性あり）
5. 場 所：青山学院大学青山キャンパス講義室（東京都渋谷区渋谷 4-4-25）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：無
8. 開催趣旨：

第二次世界大戦の終結後、モノ、カネ、ヒト、情報の国境を越える移動を促しつつ、管理する国境横断ガバナンス（transboundary governance）が構築され、進化してきた。この地球規模のガバナンス体制は、植民地主義や重商主義に翻弄された戦前の体制に対する反省に則り、適正な国境移動を樹立することを通じて、国際の友好、平和、開発を目指すものである。しかし、戦後まもなく東西・南北対立が発生し、これに伴う政治的駆け引きによって、ガバナンスの恩恵が均質に発生することは妨げられてきた。こうした不均衡を是正する取り組みは主権という名の下で否定され、モノ、カネ、情報はある特定地域に集中する一方、ヒトは貧困地域から富裕地域に流れようとし、環境破壊、感染症、武器、犯罪は地域を問わず無秩序に拡散している。さらに近年、制度の閉鎖化を図ろうとする国々が増加し、国際社会の分断を修復する道は遮られ、ガバナンスの本来の意義の達成は遠のいている。以上の背景に鑑み、本シンポジウムは国境横断ガバナンスの功罪を検証することによって、戦後 80 年の国際関係の軌跡と展望を幅広く議論する。

9. 次 第 :

開会 13:00

開会の辞 13:00-13:10

石田 淳 (日本学術会議連携会員/東京大学大学院総合文化研究科教授)

第1部 講演 (演題はいずれも仮題)

古城 佳子 (日本学術会議連携会員/東京大学名誉教授)

国際政治経済の観点から

中山 裕美 (青山学院大学国際政治経済学部准教授)

難民ガバナンスの観点から

栗栖 薫子 (日本学術会議連携会員/神戸大学大学院法学研究科教授)

人間の安全保障の観点から

下谷内 奈緒 (津田塾大学学芸学部国際関係学科准教授)

国際刑事裁判の観点から

宇山 智彦 (日本学術会議第一部会員/北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)

地域研究の観点から

第2部 ラウンドテーブルと質疑応答

全登壇者

閉会の辞 15:50-16:00

鈴木 基史 (日本学術会議第一部会員/京都大学大学院法学研究科名誉教授)

10. 関係部の承認の有無 : 第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無 : 無

(下線部の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「歴史教育シンポジウム－新課程での大学入学共通テストと歴史教育」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会、史学委員会教育現場・社会における歴史実践と歴史認識に関する分科会、日本歴史学協会
2. 後 援：高大連携歴史教育研究会
3. 日 時：令和7（2025）年10月25日（土）13：00～17：00
4. 場 所：一橋大学（東キャンパス）東2号館2201教室（東京都国立市中2-1）
（ハイブリッド開催）
5. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

日本学術会議史学委員会と日本歴史学協会は、昨年まで8回にわたる歴史教育シンポジウムで、高校の歴史教育改革のために新学習指導要領で導入された「歴史総合」を多角的に検討してきた。今回のシンポジウムでは、新課程による初めての大学入学共通テスト実施を受け、大学教育との接続の視点から「歴史総合」「世界史探究」「日本史探究」の出題について検討するとともに、高校教育における共通テストの位置付けを考えてみたい。

8. 次 第：

開会挨拶

若尾 政希（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事
／一橋大学大学院名誉教授／日本歴史学協会委員長）

司会進行

林 佳世子（日本学術会議連携会員／東京外国語大学名誉教授）

平野 千果子（日本学術会議連携会員／武蔵大学人文学部特任教授）

学術会議報告

大橋 幸泰（日本学術会議第一部会員／早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

報告

兼子 歩（明治大学准教授）

「歴史総合と大学入学共通テストー変わったことと変わらなかったこと」

佐藤 雄基（立教大学教授）

「歴史学者からみた日本史探究と大学入学共通テスト」

割田 聖史（青山学院大学教授）

「大学における歴史教育と大学入学共通テスト（世界史探究）」

大森 淳子（栃木県教育委員会事務局高校教育課主幹）

「高校教育が目指すことから考える共通テストの役割について」

コメント

穂積 暁（宮城県宮城第一高等学校教頭）

総合討論

閉会挨拶

松本 直子（日本学術会議第一部会員／岡山大学文明動態学研究所教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員）

公開シンポジウム
「女性活躍を支える家族のウェルビーイングとワークライフバランスの実現」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議経済学委員会ワークライフバランス研究分科会、一橋大学経済学研究所世代間問題研究機構
2. 共 催：なし
3. 後 援：一橋大学政策フォーラム
4. 日 時：令和7（2025）年11月22日（土）15：00～17：30
5. 場 所：一橋大学一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

男女を問わず、ワークライフバランスを確保した働き方を実現することは、今日の日本の経済社会における喫緊の課題である。これまで、労働者の健康を守り、仕事と生活の調和を図るためにさまざまな政策が推進・施行されてきたが、労働時間に関する課題は依然として大きな問題として残されている。従来は主に男性の長時間労働が注目されてきたが、女性の労働参加や労働時間の増加に伴い、新たな課題が浮上している。

長時間労働は、労働者自身の健康を損なうだけでなく、家庭内での家事・育児を十分に男女が担えなくなる要因ともなっている。さらに、外部の家事・育児支援サービスが十分に整備されていない現状も加わり、結果としてワークライフバランスの実現が一層難しくなっている。このような働き方の状況は、子どもの健全な発育やウェルビーイングに負の影響を及ぼす可能性があり、さらには少子化を一層進行させる要因となる懸念もある。これらは次世代の育成に深刻な影響をもたらす可能性がある。

こうした課題に対して、これまで実施されてきたさまざまな政策や、それを支える制度の影響と実効性を検証することは重要である。同時に、これからの時代に向けて、男女がともに働きやすい環境の整備や育児支援の拡充、さらには家族全体の働き方を見直す抜本的な仕組みづくりが求められている。

本シンポジウムでは、関連する研究成果を共有し、パネルディスカッションを行うことで新たな知見を得ることを目指す。そして、これらの議論をもとに、より効果的な政策を提言することを目的とする。

9. 次 第：

挨拶

15:00 挨拶

野口 貴公美（日本学術会議連携会員／一橋大学理事・副学長／一橋大学大学院法学研究科教授）

15:05 趣旨説明

臼井 恵美子（日本学術会議第一部会員／一橋大学経済研究所教授）

講演

15:10 『女性管理職とワークライフバランス』

報告者：奥田 純子（長野大学環境ツーリズム学部講師）

永瀬 伸子（日本学術会議連携会員／大妻女子大学教授）

臼井 恵美子（日本学術会議第一部会員／一橋大学経済研究所教授）

15:30 『ワークライフバランスに寄与する資産づくり』

報告者：角谷 快彦（日本学術会議連携会員／広島大学大学院人間社会科学部科学研究科教授／広島大学ディスティングイッシュト・プロフェッサー）

15:50 『親の帰宅時間と子どものウェルビーイング』

報告者：大石 亜希子（日本学術会議連携会員／千葉大学大学院社会科学部学術研究院教授）

長谷部 拓也（上智大学国際教養学部准教授）

休憩（10分）（16：10～16：20）

総合討論（パネルディスカッション）

16:20 座長：

臼井 恵美子（日本学術会議第一部会員／一橋大学経済研究所教授）

パネル討論者：

永瀬 伸子（日本学術会議連携会員／大妻女子大学教授）

安井 健悟（日本学術会議連携会員／青山学院大学教授）

井上 恵理菜（日本総合研究所調査部副主任研究員）

横山 泉（一橋大学経済学研究科教授）

17:20 閉会挨拶

永瀬 伸子（日本学術会議連携委員／大妻女子大学教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「分断化する社会の中で対話は可能か：
ポスト・ソーシャルメディア時代の社会構築」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議哲学委員会
2. 共 催：日本哲学系諸学会連合、日本宗教研究諸学会連合
3. 日 時：令和7（2025）年12月21日（日）13：00～17：00
4. 場 所：立教大学池袋キャンパス 11号館地下 AB01 教室（東京都豊島区西池袋 3-34-1）（ハイブリッド開催）
5. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
6. 分科会等の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

今日の社会における利害や意見の対立は、共存や相互承認に至ることなく、激しい分断へと導かれている。この分断は、コロナ禍によって対面交流が制限されるなか、ソーシャルメディアによって加速している。ソーシャルメディアや動画共有サイトの発達は、人々の情報共有を容易にしたが、考えが異なる者を敵とみなし攻撃することも日常化してしまった。

他方、SNS を利用した虚偽の政治宣伝への批判、若年層への SNS の禁止、AI 開発の制限、ネット使用の自己抑制など、情報技術に対抗するポスト・ネット文化とも呼べる新しい方向性が生まれつつある。この傾向が、さらに従来の社会の分断を大きくする可能性を孕んでいる。

そこで、本公開シンポジウムでは、ソーシャルメディアによって変容した現代の人間関係を踏まえながら、意見の異なった人々を無視し、社会を分断するのではなく、自分たちの間にある差異や対立、緊張を対話によって表現し、社会へと成長させることができるのか、その可能性を追求していく。

8. 次 第：

司会（第一部）：吉水 千鶴子（日本学術会議第一部会員／筑波大学人文社会系名誉教授／公益財団法人東洋文庫研究部研究員／日本宗教研究諸学会連合副委員長）

司会（第二部）：河野 哲也（日本学術会議第一部会員／立教大学文学部教授／日本哲学系諸学会連合事務局長）

開会挨拶・趣旨説明

河野 哲也（日本学術会議第一部会員／立教大学文学部教授／日本哲学系諸学会連合事務局長）

第一部 講演とパネルディスカッション

話題提供1：岩内 章太郎（豊橋技術科学大学准教授）「自己デザインに抵抗する〈私〉——誰かという不自由を自由に選ぶ」

話題提供2：遠藤 薫（日本学術会議連携会員／学習院大学名誉教授）「洞窟の中の〈私〉、洞窟に映る〈世界〉——ポストメディア時代を考える」

話題提供3：佐藤 清子（東京大学大学院人文社会系研究科助教）「ソーシャルメディアと「家族の価値」——宗教者女性が支える米国草の根保守」

話題提供4：戸谷 洋志（立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授）「SNSにおける論破のコンテンツ化とその影響」

話題提供5：師 茂樹（日本学術会議連携会員／早稲田大学文学学術院教授）「仏教からみた脳オルガノイドとキメラ（仮）」

パネルディスカッション・コメンテーター：吉岡 洋（日本学術会議第一部会員／京都芸術大学文明哲学研究所教授）

第二部 哲学カフェ——第一部講演をテーマとして

総合ファシリテータ：河野 哲也（日本学術会議第一部会員／立教大学文学部教授／日本哲学系諸学会連合事務局長）

グループに分かれての一般参加者と話題提供者に在る哲学対話
全体統括

閉会挨拶

中村 征樹（日本学術会議第一部会員／大阪大学全学教育推進機構教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

○国内会議の後援（2件）

以下について、後援の申請があり、関係する部及び委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 化学工学会第56回秋季大会シンポジウム「SDG s 達成に向けた札幌宣言の実行－国際連携による efficiency+sufficiency の達成－」

主催：公益社団法人化学工学会 戦略推進センター SDG s 検討委員会

共同主催：公益社団法人化学工学会 地域連携カーボンニュートラル推進委員会

共催：公益社団法人化学工学会 産学官連携センター（予定）

男女共同参画委員会（予定）

CSR 委員会（予定）

期間：令和7年9月18日（木）

場所：芝浦工業大学 豊洲キャンパス（オンライン併用）

参加予定者数：約100名

申請者：公益社団法人化学工学会 会長 永松 治夫

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

2. サイエンスアゴラ 2025（年次総会）

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

期間：令和7年10月25日（土）～10月26日（日）

場所：テレコムセンタービル、日本科学未来館、他（お台場・青梅地区）

参加予定者数：約5,000名

申請者：国立研究開発法人科学技術振興機構 理事長 橋本 和仁

審議付託先：科学と社会委員会

審議付託結果：科学と社会委員会承認

○今後の予定

●幹事会

第388回幹事会	令和7年8月29日（金）	14：30から
第389回幹事会	令和7年9月26日（金）	14：30から
第390回幹事会	第195回総会期間中に開催	
第391回幹事会	令和7年11月27日（木）	14：30から
第392回幹事会	令和7年12月23日（火）	14：30から
第393回幹事会	令和8年1月27日（火）	14：30から
第394回幹事会	令和8年2月27日（金）	14：30から
第395回幹事会	令和8年3月23日（月）	10：00から

●総会

第195回総会	令和7年10月27日（月）～29日（水）
---------	----------------------